

アラウンド GOGO 55

全障研は 実践の 道しるべ

ゆうやけ子どもクラブ

村岡真治



カイトくんと一緒に

私は37年前(1978年)、都内の大学に入学した。先輩の学生から、「障害児のボランティア活動をしないか」と誘われた。それが、ゆうやけ子どもクラブ(東京・小平市、放課後活動)の前身の活動だった。

私の専攻は英語。「障害児」に関心はない。ただし、受験勉強から解放されたからには、手ごたえのある経験をしてみたい。

(車イスを押し手伝いならできるだけだろう)。だが、予想に反して、子どもたちはみんな駆け回っていた。「知的発達遅れの遅れ」や「自閉症」という障害を初めて知った。

活動で私は、光彦(養護学校小1。自閉症)を担当することが多かった。彼は、私に目もくれず、走り続ける。ピンなどを探しだして、モノの表面を撫でるばかり。

ところが、ある日、彼が私の手を引いて、(柵の上にあるラジカセを取ってほしい)と求めてきた。(彼が私を必要としてくれた!)。私は初めて、子どもと活動する喜びを知った。

そんな私を、ボランティア仲間の一人が、全障研の事務所に連れていってくれた。新大久保駅近くのビルの一室。部屋に入りきれない書籍や資料が廊下まであふれている。薦められて、「障害児教育

入門」という冊子を買った。その中に書かれていた「ヨコへの発達」には驚いた。「同じでき方でも、1人でするので、他者とともにするのは、発達の豊かさが違う」と教えられた。

(私の拙い働きかけでも、光彦の「発達」に少しは役立っているかもしれない)。私は、胸が躍る思いがした。

全障研は、ゆうやけ発達当時から、私たちの実践の道しるべとなってくれた。福祉も「サービスの売り買い」とする風潮が強まる昨今、「本当の実践」の方向を指し示す真価をいっそう発揮してほしいと願っている。

全障研第48回全国大会報告集

記念講演 高谷清さん

障害のある人の生きるよろこびと「生命倫理」

重点報告 渡邊武さん

若者へのメッセージ

みんなのねがい 1月臨時増刊号
定価(本体価格2,000円+税)

《講演記録》

黒田吉孝さん

自閉症の研究の現在と子ども理解

白石正久さん

障害のある人々の未来をひらく発達保障

●大会歌「MESSAGE」楽譜●文化行事「この子らを世の光に」を今シナリオ●予定された大会2日目●大会準備各部の活動●学習講座資料●滋賀10月5日の講演会・分科会●各地の取り組み・参加者の声 など

よしたか君も登場!

